

DENTAL

DIAMOND

2022年2月1日発行(毎月1回1日発行)
第47巻第3号 通巻693号
ISSN 0386-2305

2

インプラントが置き去りに?
天然歯の経年移動による
審美・機能的な障害

中野 環

歯周組織再生療法における
フラップマネジメント

樋口 琢善

補綴エラーを回避するための
デジタルコミュニケーション

葉山揚介 田中秀樹

割増賃金
計算の基礎への不算入

北川 淳

人間は歯が命

伊藤潤二

GPの疑問に答える!

歯科小手術の勘どころ

軽部健史 白田 聡 相馬智也 宗像花楠子 筋生田整治 中川種昭

「可愛い子には旅をさせよ」



● リポート

🌟 第33回日本レーザー歯学会開催される



11月29日(月)～12月13日(月)、第33回日本レーザー歯学会がWeb配信にて開催された(大会長：富士谷盛興氏・愛院大歯；写真)。

同大会は「光によるイノベーション—これからのレーザー歯学会—」をテーマに開催され、各種講演やポスター発表が行われた。

教育講演1(歯内)では、樋口直也氏(愛院大歯)が、「歯内治療領域における抗菌光線力学療法の未来像」と題して登壇し、細菌に光感受性物質を付着させ、特定の波長の光を照射することで殺菌・抑制する治療法である、抗菌光線力学療法(aPDT)について、論文データを示しつつ解説した。

歯科領域での活用については、複数の菌種からなるバイオフィルムへの光化感受性物質への浸透性などに課題が山積しているとしつつも、今後の展望としてう蝕治療への応用により歯髄保存やMIに貢献できるのではな

いかと述べた。

特別講演「消化管内視鏡によるイノベーション…歯に光をあててみた…」では、中村哲也氏(独協大学病院：日本レーザー医学会理事長)が登壇し、照射することで、黄色い胆汁が赤く見えるBLI(Blue LASER Imaging)用レーザーを用いた観察について解説した。

歯にBLI用レーザーを当てて赤く見えた患者の胃の中を観察したところ、胆汁で充満していたことから、胃液だけでなく胆汁も逆流することで、口腔内の環境に影響を与えているのではないかと述べた。

🌟 第7回日本臨床歯科CAD/CAM学会学術大会開催される



12月4日(土)、5日(日)の両日、第7回日本臨床歯科CAD/CAM学会学術大会がWeb開催された(大会長：北海道敏行氏・兵庫県開業)。「オープンリソースによるデジタル臨床を考える」をテーマに掲げ、教育講演、特別講演、CAD/CAMシンポジウム、海外招致講演など多彩なプログラムが企画され、歯科用CAD/CAM

に関する最新情報が発信された。

教育講演「ジルコニアインプラントの現状と表面改質」では、伴清治氏(愛院大歯)が登壇。欧米ではジルコニアはインプラントフィクスチャーとしても利用が進んでいるとして、チタンインプラントとジルコニアインプラントの比較を各種論文紹介を交えて行った。現状、国内ではジルコニアインプラントを医療材料へ申請しているメーカーはまだないが、いずれは国内に入ってくることを想定し、情報を得ておく必要性が訴えらるとともに、代表的な製品の特徴を解説した。

特別講演ではMichael Dieter氏(Ivoclar Vivadent(株))が「Modern Digital Dentistry - Possibilities and Limitations of the Chairside Application」と題し、デジタルワークフローの可能性と、CAD/CAMアプリケーションの限界について解説。印象、材料、患者とのコミュニケーションの側面から、デジタルワークフローと従来法の比較について考察した。

その他、IOSやマテリアルの選択など、デジタルデンティストリーを行ううえで知っておくべき知見に関する各種講演が行われた。